

天理参考館では今年も選りすぐった展示品で構成した展覧会を開催します。**墳墓の護り手** と **はれの日の装い** では、古代中国の死生観やわが国の装身具の歴史を紐解きます。**風とあそぶ** は珍しい中国の風を展示し山東地域の民俗にも触れます。特に9～11月には **天理図書館 古典の至宝** を開催し播磨国風土記、源氏物語、明月記など国宝を含む古典の白眉をご覧ください。 **顧問 松田真一**

2017年度 展覧会

第79回企画展

墳墓の護り手 — 鎮め護り彩る品々 —

会期：4月12日(水)～6月5日(月)

第80回企画展

風とあそぶ — 中国山東省の風 —

会期：7月5日(水)～9月4日(月)

特別展

天理図書館 古典の至宝 — 新善本叢書刊行記念 —

会期：9月16日(土)～11月27日(月)

2018年新春展

はれの日の装い — 装身具の歴史 —

会期：2018年1月5日(金)～3月5日(月)

トーク・サンコーカン(公開講演会)

記念講演会

◆時間：午後1時30分～ ◆会場：研修室 ◆受講料：無料(ただし入館料が必要) ◆定員：100名(当日先着順)

開催日	タイトル	講師	
4月22日(土)	墳墓の中の不思議な世界 —墓を護る奇妙なモノたち—	学芸員	青木 智史
5月12日(金)	古代中国の冥界観と神仙世界を探る	学芸員	青木 智史
5月20日(土)	文化的視点から考える死生観における 「障り」と「癒やし」	奈良教育大学 特任教授	頓宮 勝氏
6月24日(土)	モンスーンアジア各地の住まい	元学芸員	吉田 裕彦
7月22日(土)	中国風の魅力—山東省の資料を中心に—	学芸員	中尾 徳仁
9月30日(土)	関西本線の盛衰—関西鉄道の奮闘 と駅弁ラベルから垣間見える現状—	学芸員	乾 誠二
10月21日(土)	シリーズ『創設者・中山正善の足跡』① 創設者とオリエント学	学芸員	巽 善信
11月25日(土)	シリーズ『創設者・中山正善の足跡』② 世界隅から隅まで—創設者と海外巡教—	学芸員	梅谷 昭範
1月27日(土)	日本の瓦 —その源流と歴史—	学芸員	太田 三喜
2月24日(土)	化粧の歴史	学芸員	藤原 郁代
3月17日(土)	写真で辿る「布留遺跡」発掘調査の歴史	学芸員	日野 宏

企画展
トーク

企画展
講演会

企画展
講演会

トーク

企画展
トーク

トーク

特別展
トーク

特別展
トーク

トーク

新春展
トーク

トーク

第79回企画展

墳墓の護り手 — 鎮め護り彩る品々 —

会期：4月12日(水)～6月5日(月)

古代中国で死者を邪悪な存在から護るために墳墓に納められた品々を展示します。古代中国の人々は、死後の世界とそこでの生活を想定し、生前世界とは異なった危険が存在すると考えていました。死後に魂や肉体を苦しめる邪鬼の類は大きな恐れの対象であったのです。展示品を通して古代の人々の死後に対する「恐れ」と「備え」を知っていただきたいと思います。



玉覆面 西周時代

第80回企画展

風とあそぶ — 中国山東省の凧 —

会期：7月5日(水)～9月4日(月)

中国山東省の濰坊で制作された凧を中心に展示します。中国の凧は2000年以上の歴史があると言われていています。現在も多く凧が作られています。特に濰坊は中国を代表する凧の産地として有名です。今回は、鳥(燕、鷺、鶴など)、昆虫(チョウ、トンボ、セミなど)、動物(虎など)等の珍しい形をした凧のほか、たくさんの凧を連結させて揚げる巨大な「龍頭ムカデ凧」(全長数十メートル)も展示します。賑やかで、お子様でも気軽に楽しめる展覧会です。



凧(燕) 中国山東省・20世紀後半

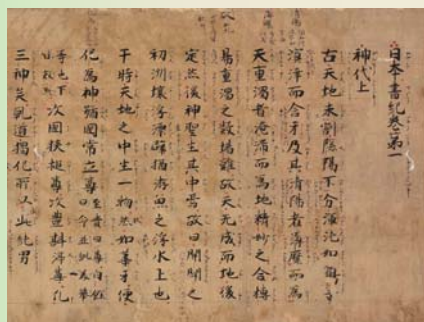
特別展

天理図書館 古典の至宝 — 新善本叢書刊行記念 —

会期：9月16日(土)～11月27日(月) I期：9月16日(土)～10月9日(月)

II期：10月11日(水)～11月6日(月)

III期：11月8日(水)～11月27日(月)



国宝『日本書紀』(乾元本)

2015年4月から刊行が始まった新天理図書館善本叢書に収録される中から重要文化財『古事記』(道果本)や国宝『日本書紀』(乾元本)などの国史古記録、国宝『類聚名義抄』(観智院本)などの古辞書、『源氏物語』(池田本)や室町時代末から江戸初期にかけての奈良絵本、西鶴・芭蕉・蕪村の自筆資料など、国宝3点・重要文化財10点を含む古典籍70余点を3期に分けて公開します。

2018年新春展

はれの日の装い — 装身具の歴史 —

会期：2018年1月5日(金)～3月5日(月)

お正月は気持ちを新たに晴れ着を着たりして迎える特別な日です。そこで本展は、考古資料で装身具やお化粧の歴史をふりかえります。人は昔から、綺麗に、立派に、威厳があるようになど、いろいろな目的で身体を飾ってきました。勾玉や耳飾りなどの装身具に加えて、土偶や埴輪の表現を通して、昔の人の特別な日の装いを見てみます。



髪を結び首飾りをした女性の埴輪 群馬県出土

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学 附属

天理参考館

TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

開館時間：午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

天理参考館
ウェブサイト

入館料：大人400円/団体(20名以上)300円

小・中学生200円(学校単位の団体無料・要事前申込)

※障がい者とその介護者各1名は無料となります。

受付カウンターに障がい者手帳をご提示ください。

